

第421回鉄鋼流通問題懇談会

2012年5月24日(木) 14:30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

△鉄流懇新会長ご紹介(JFEスチール(株)常務執行役員・石川逸弥氏)

議 題

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1. 配布資料説明(全鉄連) | 3. 意見交換 |
| 2. 全鉄連情勢報告 | 4. 経済産業省挨拶 |
| (1) 地区の状況 | 5. 鉄流懇会長挨拶 |
| ○東京、大阪、愛知、東北、岡山地区概況報告 | 6. その他 |
| (2) その他地区の概況 | |
| ○鉄流懇5月例会で発表の各地区景況などアンケート結果 | |
| (3) 総括：林全鉄連会長 | |

○次回以降会議予定

2012年8月21日(火) 14:00 ~

於：日本鉄鋼連盟4階第1会議室

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2012年5月)

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		メタルワン	住友商事	阪和興業	メタルワン
1. 需給動向 (景況感)		大型連休後も荷動きに大きな変化無く依然として低位横ばい基調。しかし、足場管や鋼管杭向けの引き合いは活発化しており今後需要が期待される。流通各社の在庫水準も需要減からやや過剰気味。高炉メーカーの母材コイル値上げ発表があったものの市況にも動きは無く現状維持が精一杯であり若干弱含みの状態。	3月末の薄板三品在庫は、411万トン(前月比▼4万トン)と3ヵ月連続で減少。然し昨在庫率は2.23ヵ月となっており、未だ過剰感の解消過程にあると捉えられる。自動車や建築、太陽光等の省エネ分野など生産好調な分野に加え、復興需要でも一部荷動きが出てきたことから、需要回復の期待感は芽生えつつあるが、集購価格の大幅値下げに加え、市中には依然としてタイト感が感じられないこと等から、流通筋は依然として当用買いに徹しており、メーカーの値上表明は中々浸透し難い状況となっていると思われる。	3月末厚中板在庫は、360千トで前月比1千ト減少。この1年間は、ほぼ360~370千トで推移。足元厚板需給はミル間のばらつきがあり、タイトなところと余裕があるところがある。切板は、建機向け忙しいが、建築、店売りともにぱっとせず稼働低調。高炉メーカーは店売り、建材ともに4~5月に値上げアナウンスしている。	棒鋼 関東地区の丸棒発注数量について、2-3月は30万ト/月前後(推定)と比較的高いレベルとなったが、1-4月平均では22万ト/月(推定)レベルの模様であり、依然盛り上がりには欠ける状況。 形鋼 H形鋼に関し、本年1月以降荷動きが落ち中、4月末市中在庫は203千ト(ときわ会全国ベース)と5ヶ月連続での在庫増加となっており、足元の市中タイト感は薄い状況。
2. 需要産業動向		4月以降自動車メーカーの生産台数が前月比20%程度減少。本格回復は6月以降を見込む。建機については、中国向けの落ち込みを資源国向けの鉱山用大型建機で補っている状況。国内は復興需要に伴う建機リース需要が今後期待される。建築・土木については、足元の荷動きは依然として低調。本格的な復興需要はこれから。造船については、新規受注が全く取れておらず、受注しても小型バルクキャリアーが多く需要は減少傾向。プラントエネルギー分野については、大型プロジェクト向け輸出が好調なもの、国内は小規模のプラント定修案件のみで低調。	3月の国内自動車(四輪車)生産台数は98万5千台(前年同月比+243.7%)と大幅な伸びを示し、6ヵ月連続で前年同月を上回った。一方、家電生産はエアコン33万5千台(同▼4.8%)、冷蔵庫9万8千台(同+5.1%)、洗濯機16万8千台(同+11.4%)とまだ模様となっているが、薄型TVは13万9千台(同▼81.6%)と依然として低迷が続いており、復調の兆しが認められない。新設住宅着工戸数は6万6,597戸(同+5.0%)と2ヵ月連続で前年同月を上回っており、分譲マンションの好調さを背景に持ち直しの動きが見られる。	3月末造船手持工事量は35,008千GTで、前月比686千GTの減少(3ヶ月連続)。足元の建造ピッチもスローダウンし始めており、今後鋼材発注量も減少していく模様。また、3月の建設機械出荷金額は2,730億円で前年同月比37.5%の増(3ヶ月連続)。内訳は内需が62.8%(12ヶ月連続)の増。外需は28.1%(27ヶ月連続)。中国を除く全地域で好調持続。2011年度では、2兆3,504億円で19.7%増となり、2007年度に次いで過去2番目の金額となった。	全国のマンション供給戸数は、2011年(暦年)8.7万戸(前年比+2%)と2年連続増加し、2012年(暦年)は10.0万戸(同15%)と改善傾向は当面継続の見通し(不動産経済研究所による)なるも、リーマン前に比すると70%前後の水準であることに変わりはない。又、全国鉄骨需要量(推定)は2011年度431万ト(前年度比+3%)と2年連続増加し、2012年度は横這から微増の見通しなるも、これもリーマン前に比すると70%前後の水準。復興需要について土木関連は今年度に動意も期待できるが、建築関連の動意は来年度以降と予想する。
3. 輸出入動向		2012年3月度鋼管輸出量は継目無鋼管:5.9万トン(前月比▲2.4%)、溶鍛接鋼管:11万トン(前月比+100%)。輸入量は、溶鍛接鋼管:0.9万トン(前年同月比▲7.8%)となった。	3月の薄板三品の入着量は28万4千トンと、前月比+5万トン(前月比+21.4%)となった。地域別では、中国同+8千トン(同+58.4%)、韓国同+2万3千トン(同+13.8%)、台湾同+1万8千トン(同+34.2%)となっており、中国からの増加幅が大きい。	3月の輸入通関は、4.2万トで、前月比2%増(韓国から3.8万ト)。昨年9月以降韓国よりコンスタントに3~5万トン継続入荷。輸出は35.3万トで前月比37.7%増(韓国向け16.5万ト)。	1-3月の小形棒鋼輸出量は6.3万トと前年同期比▲1.0万ト。輸入量は0.7万トと前年同期比横這となった。 1-3月のH形鋼輸出量は9.4万トと前年同期比▲3.3万ト、輸入量は1.5万トと前年同期比▲0.8万トとなった。
4. 海外市場動向		ラインパイプ:欧州の大型案件停滞等を背景に本年下旬までは需要低調。日本ミル各社のUOE、ERW Pipeラインにはタイト感無し。本年下旬からはアジア・オセアニア等での需要が見込まれる。 油井管:5月4日付けの米国稼働リグ数は1965基と、前年比129基増加するなど引き続き堅調。 汎用品のタイト感はあまりないが、13Cr系など高級材については、12年度上半期は日本各社とも既にほぼ埋まっており、12年末にかけても堅調な需要が見込まれる。	中国では、1~3月期のGDP伸び率は+8.1%と前期から引き続き減速。香港上海銀行PMIは輸出需要の低迷などから5ヵ月連続で50を下回り『生産活動は依然として低水準』との指摘もされており、BRICS貿易相会議等の場で『内需拡大による経済成長の維持を図る』との方針発表が行われた。韓国は、輸出額はEU向け(前年同月比▼20.3%)、中国向け(同+0.7%)等は低調だったが、米韓FTAの影響で北米向け(同+27.9%)が大幅に増加し、全体をけん引した。米国は、1~3月期のGDPは2.2%とアナリストの予想を下回ったが、個人消費支出が+2.9%と、前四半期(+2.1%)から加速し、2010年第4四半期以降最大の伸びを示したため、成長鈍化懸念は若干和らいでいる。欧州は、3月のユーロ圏財務相会合で金融安定化網の強化で合意、スペインでも財政緊縮策が閣議決定される等一定の進展は認められたが、ギリシャの再選挙の行方なども含め、先行き楽観を許さない状況が継続。先日発表された1~3月期のGDP伸び率も辛うじて横ばいとなったが、財政不安を抱えるスペインやイタリアはマイナスであり、欧州経済は厳しい状況が続いている。	東国製鋼が、No.1ライン停止を発表。中国市況は、弱含み横ばい。	東アジアの新興国は引き続き成長は見込まれるものの、足元の需給は全体的に緩和の模様。スクラップ市況が足元落ち着いていることも影響し、マーケットは各国様子見状態の感有り。
5. トピックス					

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2012年5月)

発表者	メーカー
発表項目	J F E スチール
1. 需給動向 (景況感)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本経済は、個人消費を中心に緩やかな回復基調を維持している。3月の鉱工業生産指数は前月比で再び増加に転じ、個人消費では小売業販売額、乗用車販売ともに高水準を続け、輸出数量指数は2ヶ月連続で増大した。世界経済は、米国は緩やかな回復を維持し、新興国では金融緩和の後押しをうけて持ち直しの動きが見られる。ただしながら欧州ではギリシャ、南欧を中心とした債務危機が依然景気低迷のリスク要因となっており、先行きの動向は不透明な状況が続いている。 ・ 国内では、3月の粗鋼生産は前年比+2.3%の932万トンと7ヶ月ぶりで前年を上回った。普通鋼鋼材出荷(3月)も前年同月比4.6%増の667万トンと13ヶ月振りで前年を上回った。一方、3月の普通鋼鋼材輸入は27ヶ月連続の増加となり、38万トンとほぼ40万トンに近づくレベルまで増加している。こうした中、3月末の普通鋼鋼材在庫は551万トンと2ヶ月連続の減少となった。なお、2011年度の粗鋼生産は、東日本大震災などの影響もあり、前年比▲3.9%の1億646万トンと、2年ぶりに減少となった。 ・ 海外では、3月の世界粗鋼生産が、前年比+1.8%の1億3220万トンとなった。また中国6158万トン、韓国610万トンと、それぞれ月間での過去最高を更新した。日割りでも世界・中国・韓国ともに対前月増が続き、中国・韓国の鋼材輸出は高水準が続いている。鋼材市況は米国では下げ止まり感が見られる中、欧州では上伸基調に一服感があり、中国では供給、在庫増を受けて上申の勢いが鈍化している。4月粗鋼生産 1億2838万トン(前年比+1.2%)。 ・ 鉄鋼需要には回復の兆しが伺えるが、アジアにおける鉄鋼需給緩和、欧州金融不安、円高に伴う輸入鋼材増と国内産業の空洞化懸念など、日本鉄鋼業を取り巻く環境は依然厳しい。引き続き内外の経済動向、鋼材需給動向等へ細心の注意を払っていく必要がある。
2. 需要産業動向	<p>[建 築] 3月新設住宅着工戸数6.7万戸(前年同月比5.0%増)。2ヶ月連続のプラス。 11年度の新設住宅着工戸数は前年度比2.7%増の84.1万戸と2年連続のプラス。</p> <p>[自動車] 4月国内販売34万台(前年同月比約2倍)。7ヵ月連続前年比増。 3月完成車輸出43万台(〃38.3%増)。11年度では462万台(〃3.8%減)。2年ぶりの前年割れ。 3月四輪車生産98万台(〃2.4倍)。6ヶ月連続前年比増。11年度では927万台(〃3.0%増)。2年連続で増 加となった。</p> <p>[産業機械] 4月工作機械受注 前年同月比0.4%増の1073億円。3ヶ月連続1000億の大台を維持。</p> <p>[造 船] 3月末手持工事量 3,501万GT(前月比1.9%減)。引き続き減少傾向。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] 3月の全鉄鋼輸出は、389万トン、前年同月比4.7%減。</p> <p>[輸入] 3月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比11.8%増の38万トンと27ヶ月連続で増。前月比で12.6%増と5ヶ月ぶりに増加。国別では、韓国(前年比15.7%増。29ヶ月連続増)、台湾(〃11.3%増。6ヶ月連続増)で増加も中国(〃6.1%減)は4ヶ月振りの減少となった。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国の4月粗鋼生産は、6,057万トン(前年比2.6%増)、韓国601万トン(前年比2.6%増)。